

友愛労働歴史館公開講演会

松岡駒吉、山口文象が 青雲荘アパートメントに込めたメッ セージ

惟一館→労働会館→青雲荘→三田会館
日本の労働運動メッカ120年の流れの中で

2014・05・27

伊達 美徳

この講演で話題とする人物

日本の近代建築の父

ジョサイア・コンドル(1852～1920)

日本の労働組合運動指導者

松岡駒吉(1888～1958)

近代建築運動家・モダニズム建築家

山口文象(1902～1978)

この講演で話題とする建築

●唯一館(1894～1931)

↓ 日本労働運動発祥

日本労働会館(1931～1945)

日本労働運動の本拠

●青雲荘アパートメント・友愛病院(1936～1945)

↓ 労働組合の共同福祉事業の発祥

芝園食堂(1945～1964)

戦後食糧難時代の大衆食堂

講演で話題とするのはこの講演会の場所である
芝2丁目、その今の風景の三田会館・友愛会館



「惟一館」と「青雲荘」の跡地には「三田会館・友愛会館」が建っている

その芝2丁目の同じ場所の120年前、1894年3月25日
ユニテリアン協会「惟一館」の献堂式の風景
ジョサイア・コンドル設計の基督教の会堂が建った



それから42年後の1936年、惟一館は日本労働会館と名を変えており、その隣に山口文象設の「青雲荘・友愛病院」が建った、今日の講演はこの白亜の建物がメインテーマ



コンドル設計の「惟一館」は1894年に竣工し、キリスト教の教会として1923年まで使われた。1931年に労働運動団体の総同盟が買い取って「日本労働会館」と改称、1945年の戦災で焼けるまで建っていた



19世紀末のころの地図には、三田育種場と競馬場とある。ここは薩摩藩の屋敷であった。育種場は後に牛鍋谷として繁盛した「いろは牛鳥肉店」の牧場になった。ユニテリアン協会はその右上あたりに建ったようだ。このあたり一帯は明治になって三田四国町と名付けられて、戦後の町名改正までその町名だった。



1921年の芝区地図にはユニテリアン協会と掲載されている。南隣に芝小学校が既にある。日比谷通りの反対側あたりは工場が多いようだ。今の日本電気につながるのだろう



ユニテリアン教会・惟一館の設計者ジョサイア・コンドルは、英国からやってきた明治政府のお雇い外国人で、日本に西欧近代建築をもたらし、日本に初めて建築家を育てた



- 1852年：ロンドンに生まれる
- 1877年(明治10年)：明治政府のお雇い外国人として来日、工部大学校造家学教師(現・東大工学部建築学科)として建築教育
- 明治政府の工部省営繕局顧問として官庁建築設計
- 1881年：河鍋暁斎に入門
- 1888年：建築設計事務所開設
- 1893年：前波くめと結婚
- 1894年：惟一館完成**
- 1920年：東京で逝去。67歳

コンドルによる惟一館の設計図の一部(京大所蔵)である透視図
プロポーションは洋風だが和風モチーフをちりばめてあり、コンドル
の設計では唯一の和洋折衷のデザインだった



惟一館(ユニテリアン教会)のデザイン

- 西洋風と日本風との和洋折衷デザイン
- コンドルの作品では唯一の和洋折衷
- コンドルは折衷主義のデザイナー
- なぜコンドルに依頼したか
- マコーレイ牧師の要望であったか
- ユニテリアン派の教義のとの関連か
- コンドルは何を意図したか

コンドルの設計図にもとづいて友愛労働歴史館が制作した模型で見ると、屋根の唐破風、千鳥破風、石灯籠風の煙突にジャポニズムが色濃い。和洋折衷デザインはユニテリアンのマコーレイ牧師の注文でもあったらしい。コンドルに日本人からの和風建築の注文があるはずはないから、アメリカ人からの注文に、ようやくやってみたかった和風デザインをしたのだろう。ユニテリアンは東西文化融合も志向していたらしいから和洋折衷デザインはそれに則していたともいえる。



実際に建った惟一館の和洋折衷の姿は、設計図とは異なるところが多い。特に設計では二つあった千鳥破風が実際にはひとつに、反りのある屋根勾配も直線的に、石灯籠を模した煙突も設計とは異なるようだ。



開国した日本では各地で文明開化の象徴のような洋風建築が建ちだした。やってきた外国人の設計による洋風建築とともに、日本人が設計した見よう見まね洋風の折衷建築があちこちに建ったが、外国人のコンドルも和洋折衷をやったとはどういうことだろうか。東洋にやってきたからには東洋的デザインを建築家は志向するのか



開智学校(松本市) 立石清重(設計施工) 1876年

J・コンドル設計の建築はどんなものであったか概観してみよう。有名な明治政府が外交の場として作った鹿鳴館(1883－1940)は、どこかサラセン風のデザインが登場するのが、日本での初期のコンドルの東洋理解であったらしい



東京お茶の水に今も建つニコライ堂(1891年)は、実際はロシア人のデザインで、コンドルは実施設計担当だから、これにコンドルのデザインがどこまで入っているのだろうか



東京丸の内の赤煉瓦街は三菱がコンドルに設計をさせて日本の近代ビジネス街ができた。馬場先通りの風景の右手前に見えるのが三菱1号館(1894)。1968年に文部省が重要文化財指定しようとしたら突然に壊された事件があったが、ビジネスには文化財は邪魔だったのだろう



明治42年ごろの馬場先通り「一丁倫敦」

前の画像と同じ位置の馬場先通りの現代の風景。右下に1968年に壊された三菱一号館が2010年に美術館としてコピー再現されて建った。右に見える赤い超高層ビルは美術館の上空の開発権を移して建てた。ここではコンドルの作品は文化財のとはならなかったが、ようやくビジネスにも文化が芽を出しつつあるようだ。



コンドル設計の皇室博物館(1881-1923)、このデザインにもオリエンタル風のモチーフがあり、コンドルの日本理解がわかる。関東大震災で被災し、跡に国立博物館が建つ



コンドル設計の古河邸(1917)は、富豪の邸宅の建築家としてのコンドルの能力を発揮している



コンドル設計の三井網町倶楽部(1910) コンドルは折衷主義の建築家であった



これはコンドル設計ではなく、ドイツ人のエンデとベクマンによる設計の司法省(1895年)。明治政府の中央官衙計画のコンドル案が通らず、ドイツのエンデ・ベクマン案になった。コンドルは皇居宮殿計画も通らず、そのデザインは帝国の威厳を発揮するバロック的壮麗でないのが明治政府に忌避された原因だろう。この司法省計画途中案に和洋折衷デザインもあり、ドイツ人も和風に興味持ったらしい。屋根は戦災後修復の東京駅に酷似している



コンドルの弟子たちが育ってきて洋風デザインをできる様になり、コンドルは次第にその地位を失う。一番弟子だった辰野金吾設計の東京駅(1914)は、皇居の玄関としてまさに帝国の威厳を示す記念的な姿だった。1945年の空襲で炎上、残った煉瓦壁を使って修復して1947年にこの姿で再登場した。これは戦争の惨禍とそこからの復興を示しており、西の原爆ドームに並ぶ戦争記念碑だったので、この姿で保全してほしかった



2012年に登場した東京駅は、1914年の創建時東京駅の姿をコピー再現したもので、この上空の開発権を近くのビルに売って500億円を調達してお化粧をした。これで西の原爆ドームに匹敵する東の戦争記念建築が消えた。あの戦争を忘れてもよい時代になっただけ。500億円でお化粧するよりも、その金でJR運賃を下げてほしい、だって元は国有財産、つまり国民の財産なんだから。



東京駅の隣に建った東京中央郵便局(1924、設計：吉田鉄朗)は、辰野金吾の世代が様式尊重の装飾的洋風建築を消化したならば、次の世代による西欧新潮流のモダニズムデザインを取り入れたものだった。この潮流がこの講演の主テーマの山口文象の青雲荘につながる



2007/11/23 15:51

東京中央郵便局は2012年に建て替えられて今ではJPタワーという。その駅前広場側の一部を保存して超高層新ビルに組み込んだが、東京駅ほどには一般市民からの保存運動が盛り上がらなかったのは、その姿が一般受けしないモダンデザインだったからだろう。

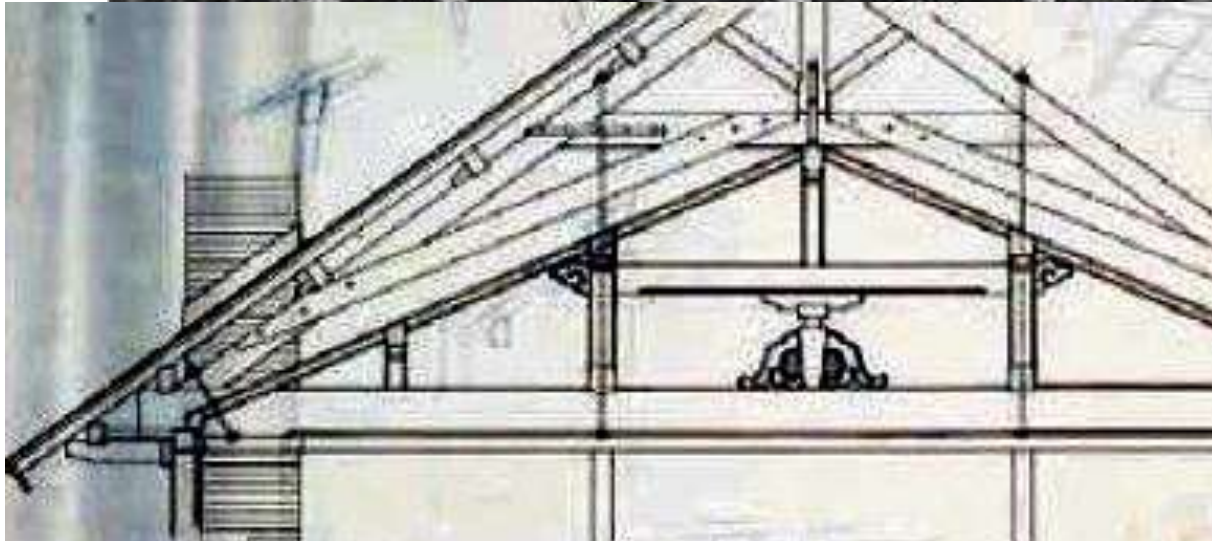


2012/10/25 16:36

話を19世紀末の惟一館に戻す。この写真はいつか分らないが比較的早い時期の絵葉書であろう。これも献堂式の日と姿とは煙突が変わった



惟一館2階の集会場内部と設計図のその部分。小屋裏を見せる高い天井であり、蟬股のような意匠もあったらしい。



1918年12月鈴木文治渡欧送別会



日本の社会主義と労働運動の発祥地となった惟一館

- 1882年アメリカからユニテリアン協会を福澤諭吉らが招請
- 知識階級の信仰と活動 安部磯雄、賀川豊彦、鈴木文治、新渡戸稲造、吉野作造、
- 1898年：社会主義研究会が発足
- 1901年：日本最初の社会主義政党の社会民主党結成（片山潜、安部磯雄、木下尚江、幸徳秋水、河上清、西川光次郎）、治安警察法により翌日禁止
- 1912年：鈴木文治らが労働者親睦団体として友愛会結成
- 1919年：日本労働総同盟と改称、 1917年：松岡駒吉着任
- 1922年：総同盟は階級闘争路線に方向転換
- 1923年：関東大震災、ユニテリアン協会が日本から撤退
- 1924年：総同盟は現実主義路線に方向転換
- 1925年：総同盟の第1次分裂、1926年：第2次分裂

惟一館の会議室 1923年



関東大震災より前か



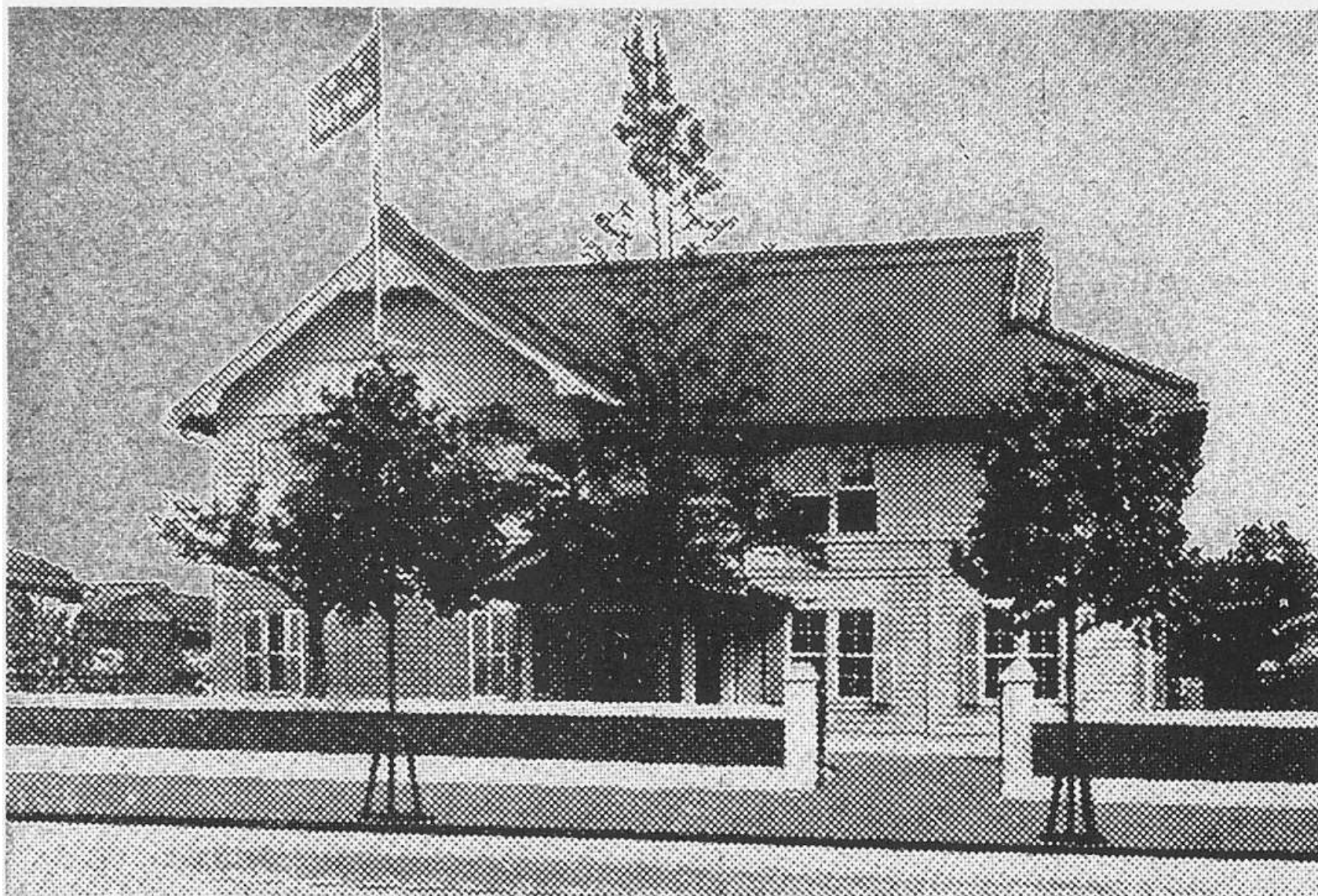
1928年



惟一館から労働組合運動拠点の日本労働会館へ

- 1923年：ユニテリアン協会が日本から撤退して、惟一館の土地建物が不動産業者に移り、総同盟の活動の場が不安定になった
- 1928年：総同盟本部会館の建設を計画、松岡駒吉を建設委員長として募金開始、安部磯雄、賀川豊彦、新渡戸稻造、吉野作造らが支援
- 1930年：総同盟が惟一館の土地建物買収
- 1931年：財団法人日本労働会館（松岡駒吉理事長）を設立して土地建物を取得登記。会館建設募金が新築には不足して惟一館を改修して「**日本労働会館**」と改称して活動の本拠とした
- 1932年：労働会館で日本労働学校、講演会、講習会を開講し、労働図書館を開館した
- 1936年：労働会館の北隣に「**青雲荘アパートメント・友愛病院**」を開設した

1931年6月 日本労働会館 唯一館を改装直後



新装成った日本労働会館（1931・昭和6年9月）

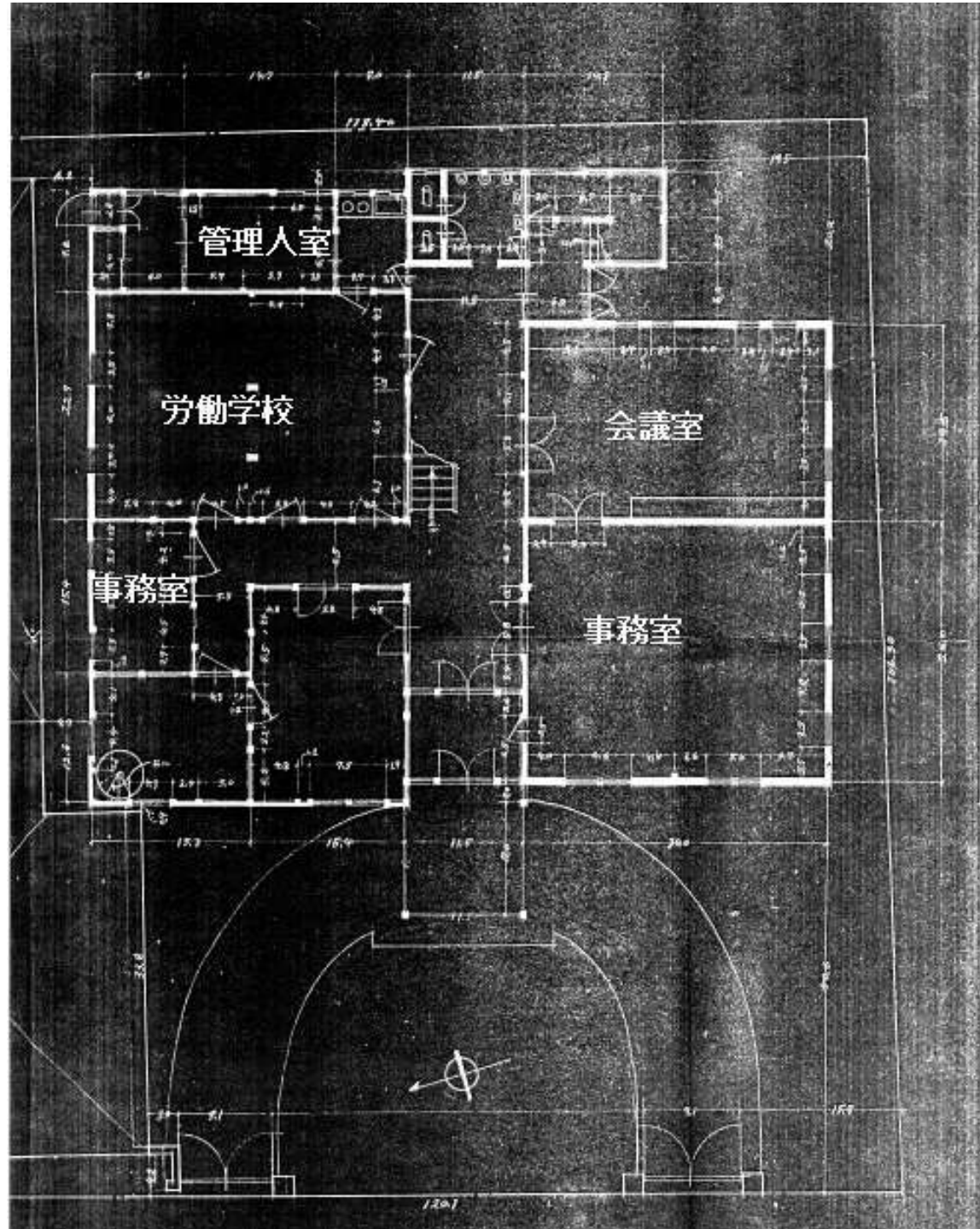
1931年11月



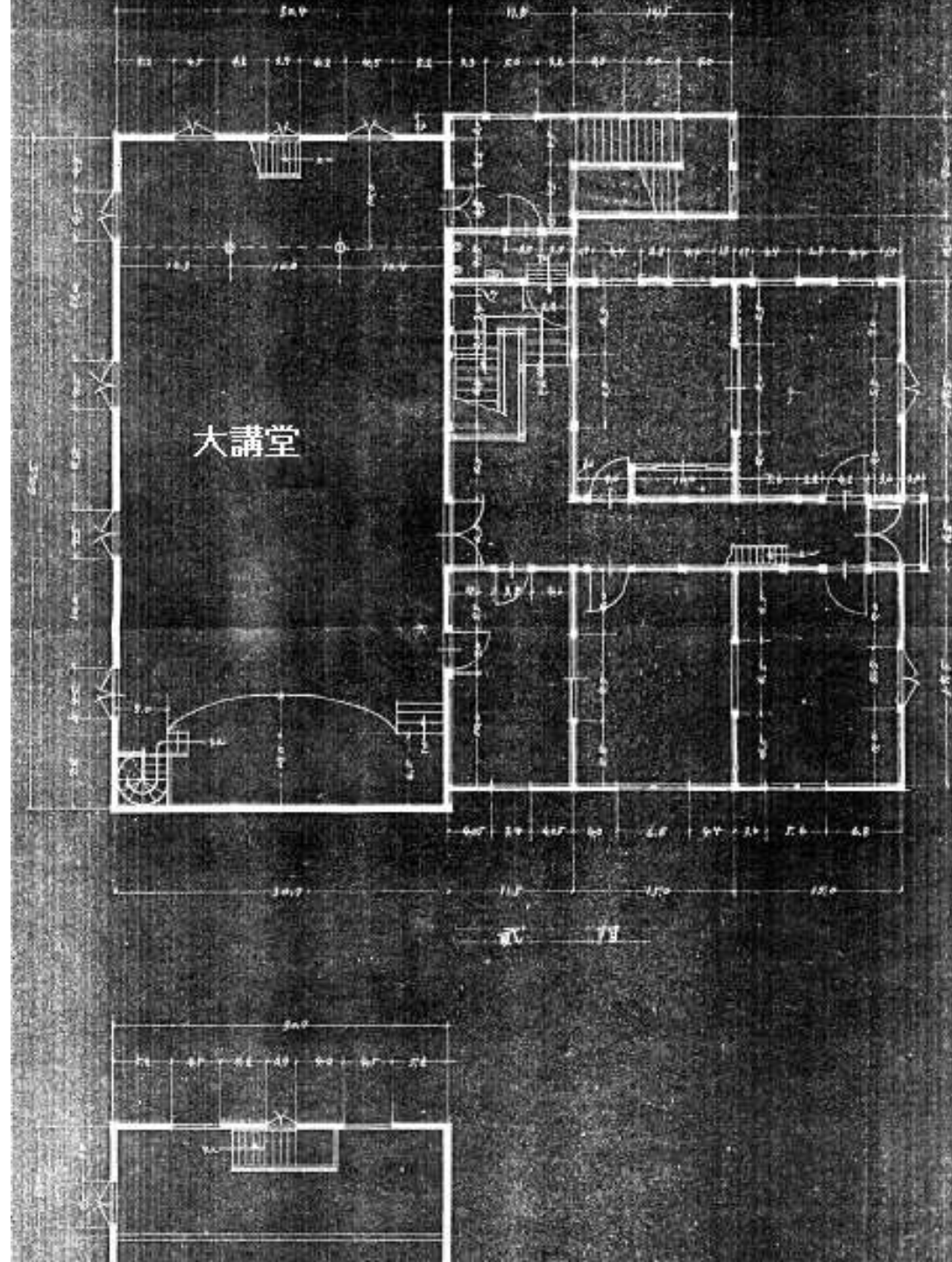
日本労働総同盟第二十回全國大會

於東京日本労働会館昭和六年十一月十六・十七日

日本労働会館
1階平面図
(RIA所蔵青写真)



日本労働会館 2階平面図



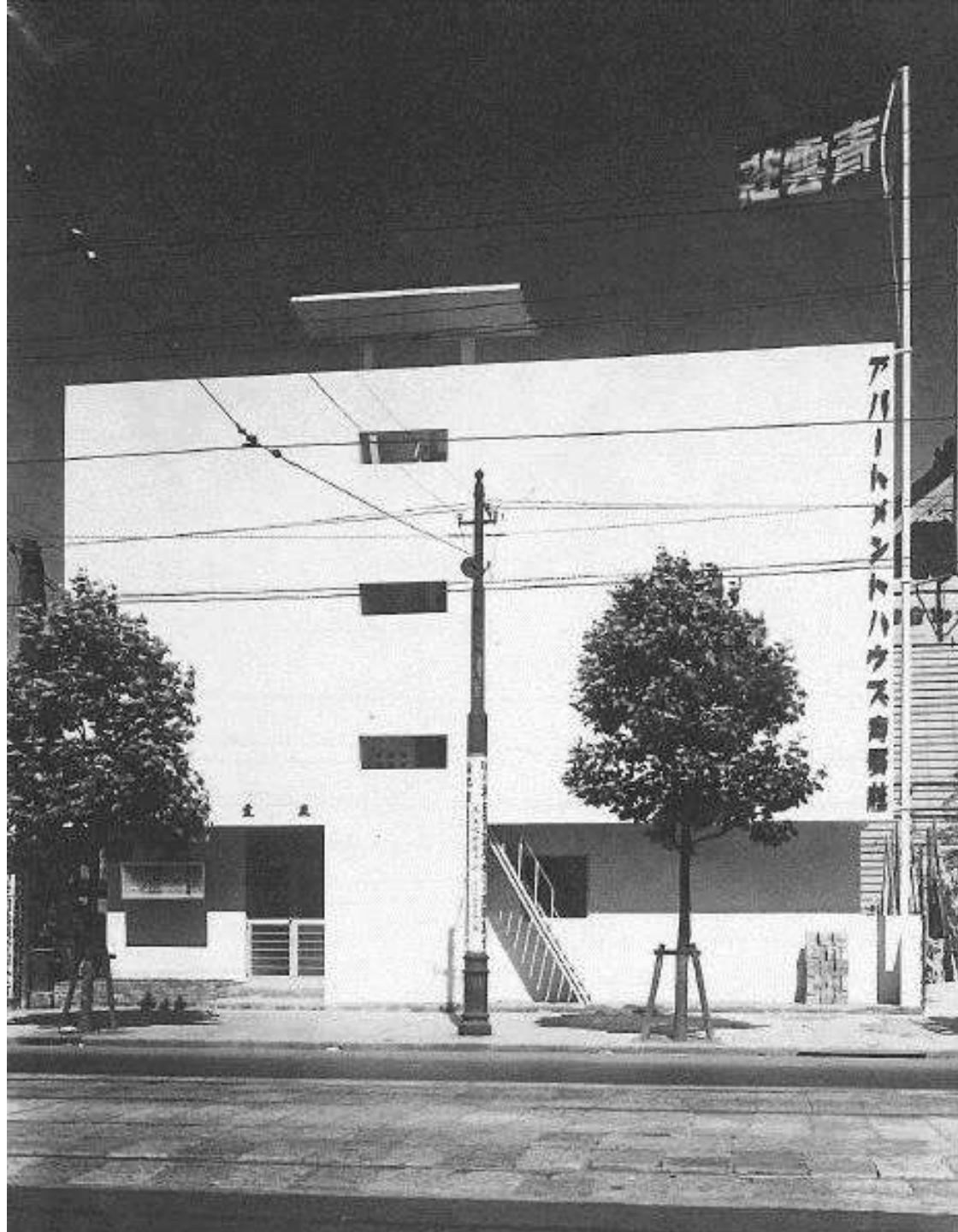
1937年の日本労働会館の風景には、左の方に白い建物が見えるが、これが1936年に建った「青雲荘アパートメント・友愛病院」



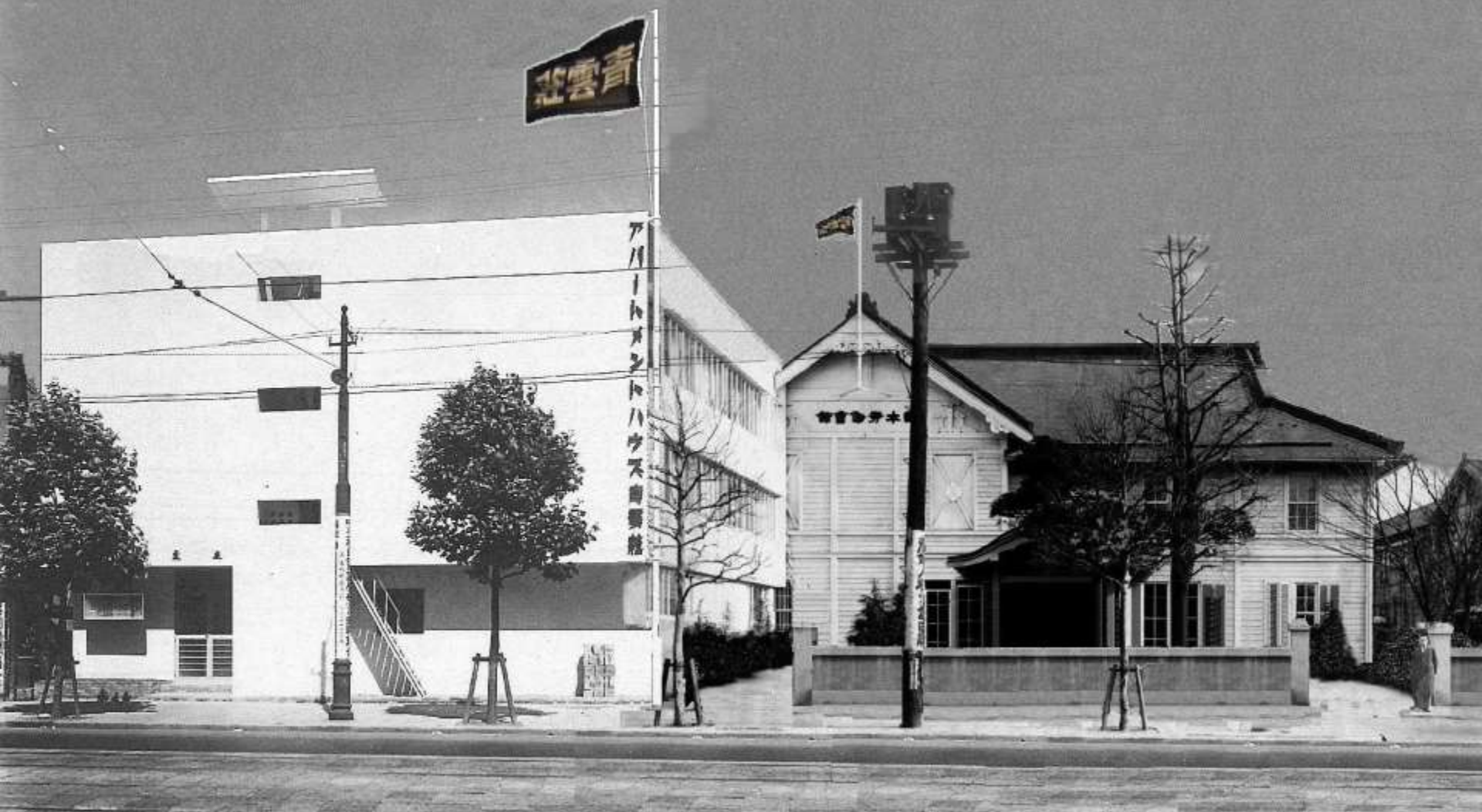
全日本労働 出版産業労働組合時事新報専議

昭和十二年一月一日

1936年、コンドルが設計した日本労働会館の北隣に山口文象設計の「青雲荘アパート・友愛病院」が建った。その日比谷通り側の姿はモダンデザインの典型的の無装飾でプロポーションの良さを強調する。コンドルがもたらした様式を基本とする欧風デザインの時代は終わり、このようなモダンデザインが先端的となる。屋上に見えるのは非常階段の屋根で、モダンデザインモチーフとして山口はほかでもこれを使っている。右端に日本労働会館が少し見える



山口文象のモダンデザイン「青雲荘アパート・友愛病院」とコンドルの和洋折衷デザイン「日本労働会館」が並ぶこの風景は、1936年から太平洋戦争の空襲で炎上する1945年まで続いた



青雲荘・友愛病院と日本労働会館

左：青雲荘・友愛病院写真（1936年6月撮影）、右：日本労働会館（1937年1月1日撮影）の2枚の写真を合成して、人物を消去する修正を施した

青雲荘アパートメント・友愛会病院と唯一館が並ぶ模型 (友愛労働歴史館製作)



青雲荘・友愛病院の建設を報じる当時の業界新聞記事

建築主 財團法人 労働會館

設計者 山口蚊象 建築事務所

請負者 合資會社 旗手組

代表者 佐藤榮一郎

現場主任 佐藤利市

工事概要

位置 芝罘三田四國町三番地

構造 鐵筋コンクリート二階建

及木造一階建一棟

延坪 一五八坪七四(鐵筋コン

クリート造)

延坪 一〇一坪八五(木造)合

計二六〇坪五九

外部 壁面北側、西側、總體及

南側鐵筋コンクリート造の部總

體面にハネ出し壁下部とも一

寸五分角鐵板「モザイクタイル」

貼り、東側總體バラベツト

裏面附各半坪ホワイトセメ

ント塗仕上

屋根 鐵筋コンクリート造の部

は「水層施工の上」シンダーコ

ンタリートにて水勾配付け表

面「モルタル」噴目地仕上

窓出入口 診療所玄関及アパ

ート入口扉、受付窓は鐵製とし

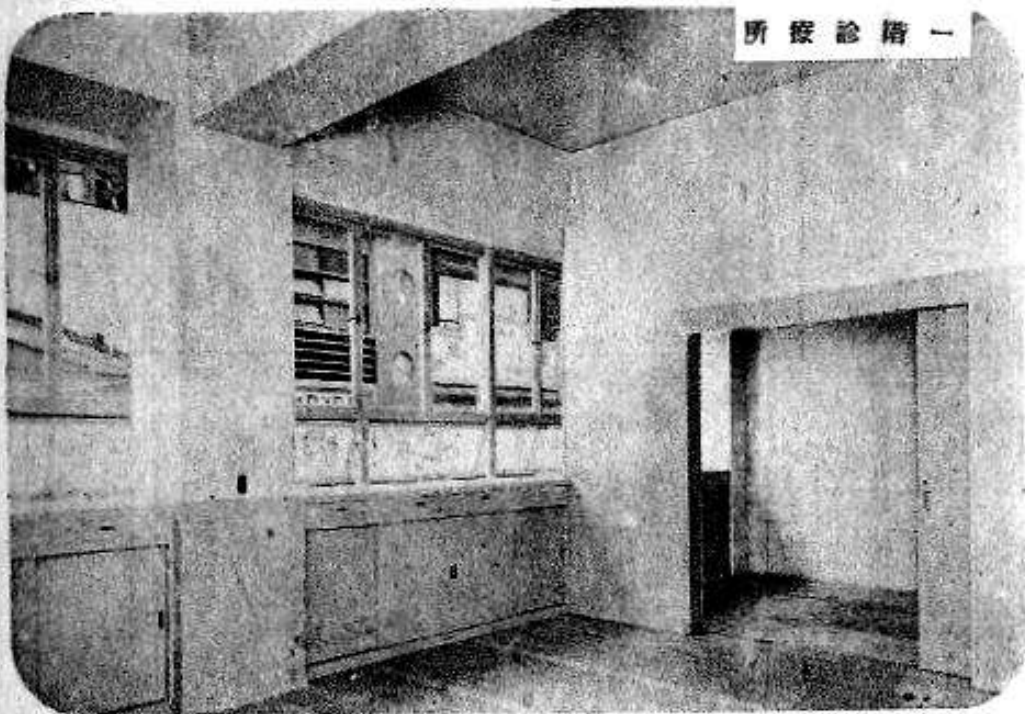
其他は木製ベンキ仕上

内部 總體を示す、天井、壁は

漆喰、腰はモルタル塗り及デラ

ゾー仕上、ホワイトセメント仕上、タイル張り、寒冷断熱、ベンキ塗仕上

一階診療所



巾木は米松ベンキ仕上、人造石研出及磨込デラゾー仕上

床 はデラゾー真鍮目地、或は米松板甲板張り、色付仕上、混凝土打タイル仕上裏敷、人造石研出、磨込デラゾー真鍮目地モルタル塗

廊下 は磨フロリダングブロック敷、ワックス塗仕上

諸設備 診療所(各科)非常階段、ホール、食堂、洗濯場等々

最新式の理想的アパート様式 近世式

着工 昭和十年十二月上旬

竣工 昭和十一年五月末日

最新式設備を誇る 芝園アパート竣工

旗手組の犠牲的努力

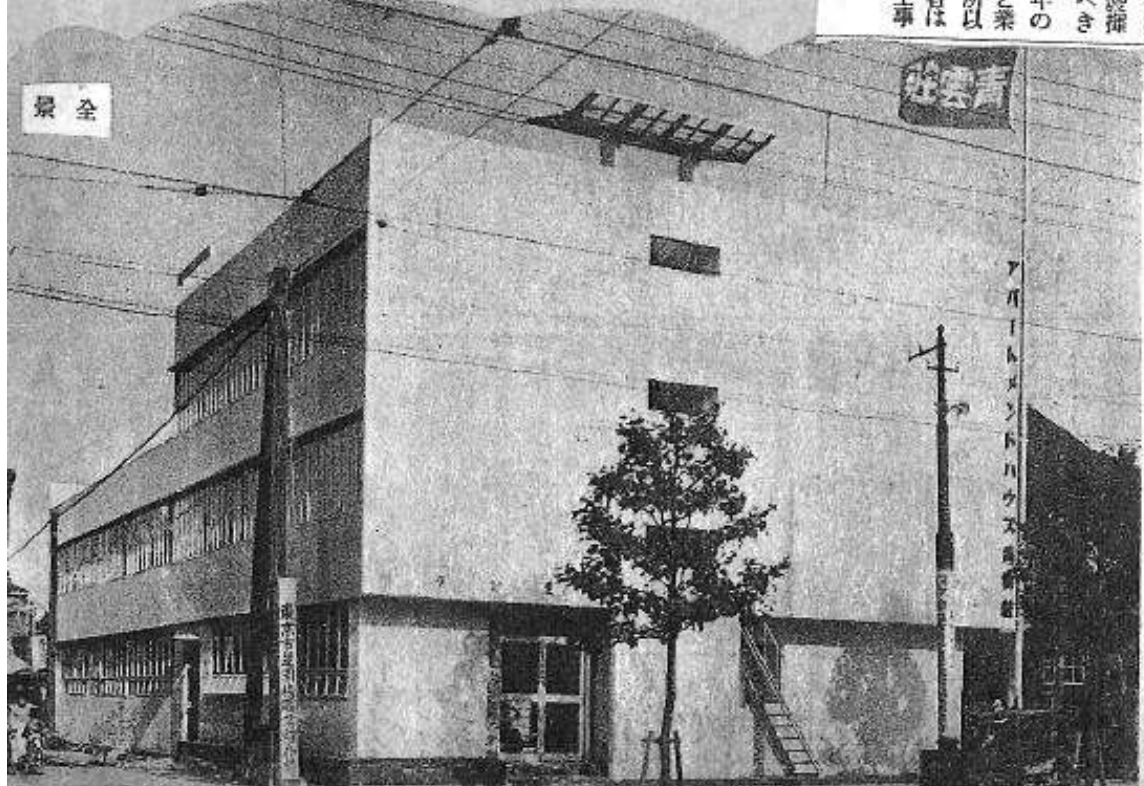
芝園協会の財団法人労働會館經營
になる芝園アパートは五月末美第
竣工した同建築は昭和十年十二月
起工會費會社旗手組の請負で工程
順調に進捗し犠牲的努力で完成し
たもの同設計は山口蚊象
建築事務所の手になり嚴密
なる監督の下に遂行す
即ち鐵筋コンクリート三階建及木
造附建一棟で延二六〇坪五九と
云ふにあり、内部仕上、外部仕上
共に近代建築材が使用され其
の様式に、外觀に、内
部間取等々、近代人に合致す
る様細心の注意が施工されてある

特筆すべきは一階に診
療所を設備と云ふ到れり盡
せりの設備で帝都で嚆矢と云ふも
過言ではあるまい
請負者旗手組の代表者
佐藤榮一郎氏の敏腕と云ふ法
的施工は遺憾なく、本建築に發揮
され、主任佐藤利市氏亦負すべき
である 同組は明治三十八年の
創業になり護國館の營業方針と兼
隨は如實に今日の礎石を築く所以
で將來の向上を期待する、記者は
茲に目出度く竣工する本建築工事
關係者一同に敬意を表す

ト 1 バ ア 階 二



景 全

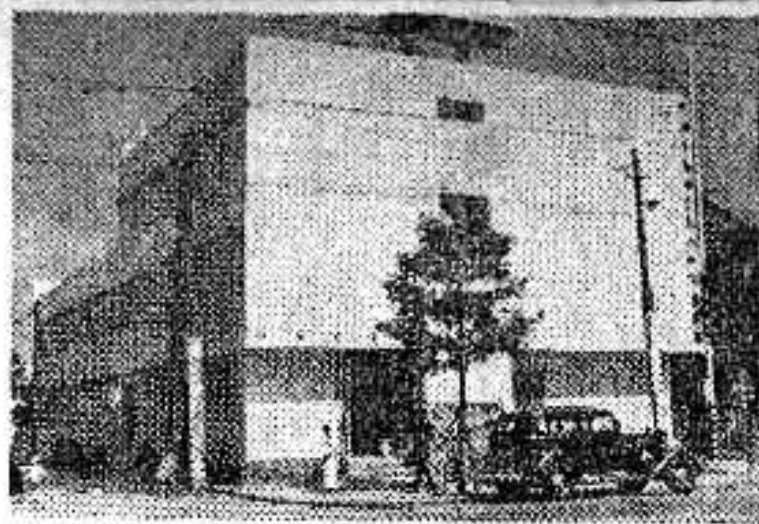


總同盟が始める

アパートと病院

芝園橋畔

白聖の三層樓



吉氏は宿望を達して嬉しうだ

一階

は全部勤務階級の
醫療費軽減のスローガンを実践
化した友愛病院にあててゐる、

洋式病室二間、日本病室七間で
各科を網羅した綜合病院、レン
トゲンと太陽燈も一兩日中には
運びこまれる、病院長には日本
醫大教授中川博士が獸身的に働
いてくれ社會醫學で鳴らした安
田徳太郎博士や虎之門外科病院
長福田洋洲博士が好意的に應援
するとなつてをり、その他新
進スタッフで萬全を期してゐる

二階

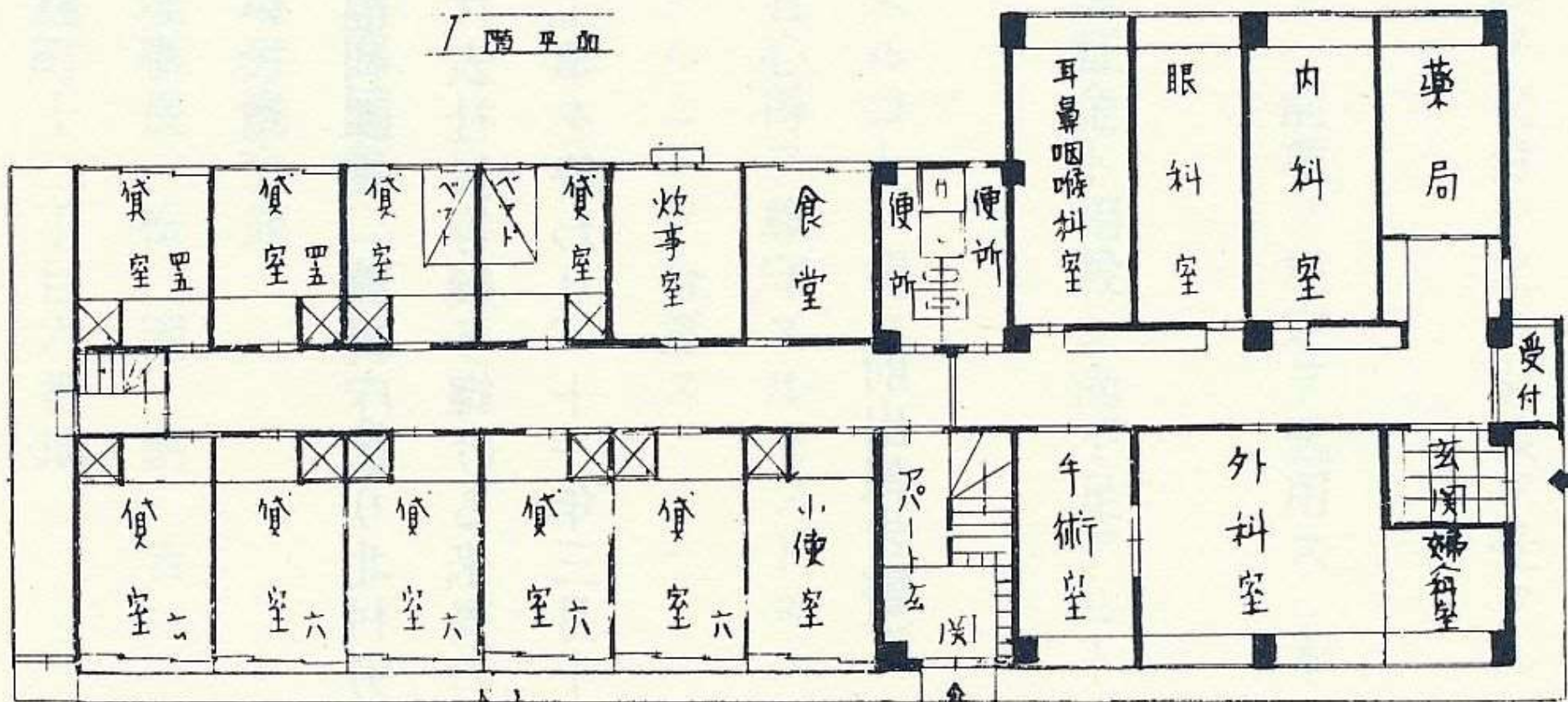
と三階は青雲荘ア
パート部屋敷二十九一般勤人と
熟練労働者を入れるさうだ、電
燈を入れて疊一枚三圓、ガラス
をふんだんに使つてぜいたくな
建物だけに部屋は明るくて氣持
が良い【寫眞は竣工近い總同盟
の病院】

全日

本労働總同盟がア

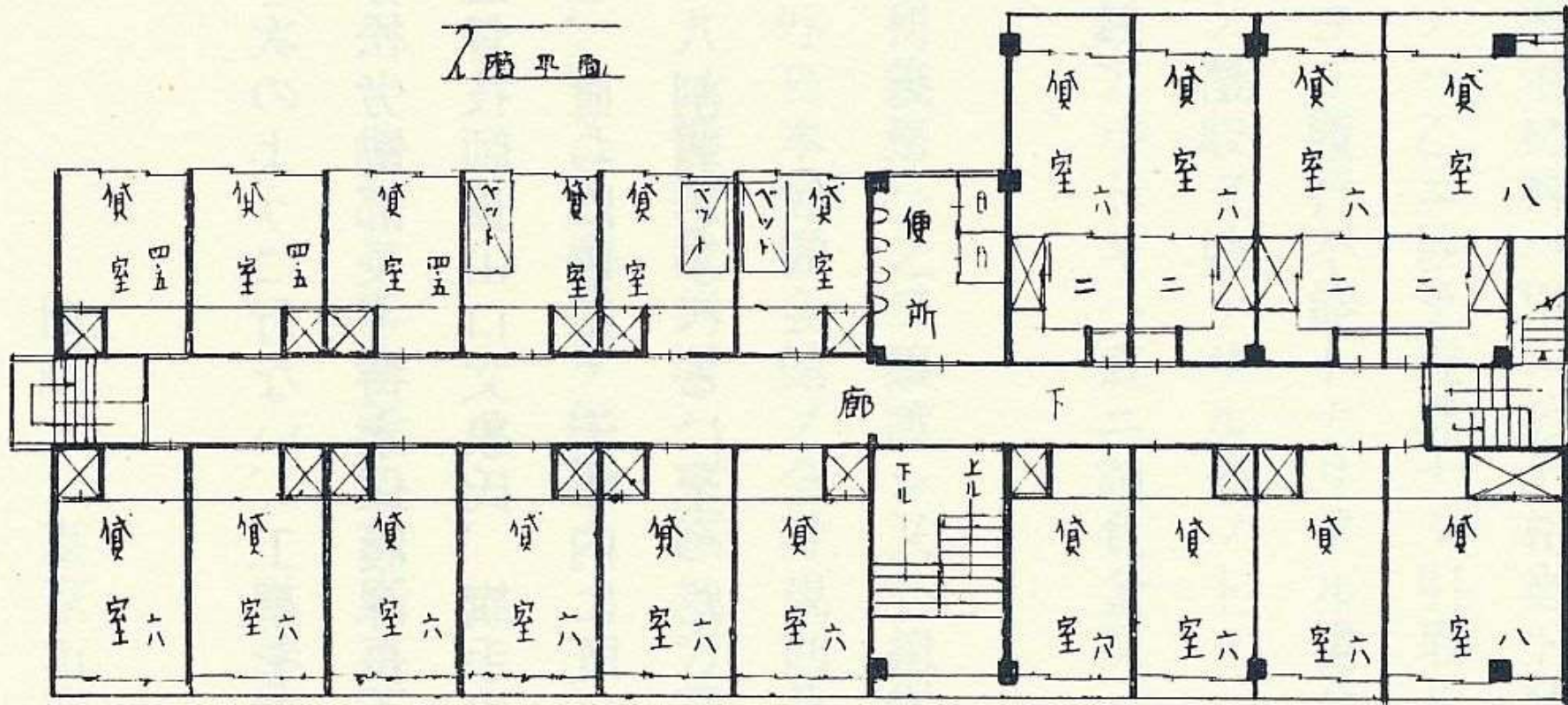
パートを始める、場所は三田四國
町の芝園橋畔日本労働會館の隣だ
白聖の三階建、新入山口敏雄氏の
極めてモダンな設計になつてゐ
る、この計畫は労働會館多年の懸
案で昨年五月政府から四萬五千圓
の低利資金を借り受けて昨年十月
工事に着手、流石に管理人松岡駒

友愛病院 1階平面図 （貸室とあるは入院室だったらしい）
右半分は鉄筋コンクリート造3階建て、左半分は木造2階建て

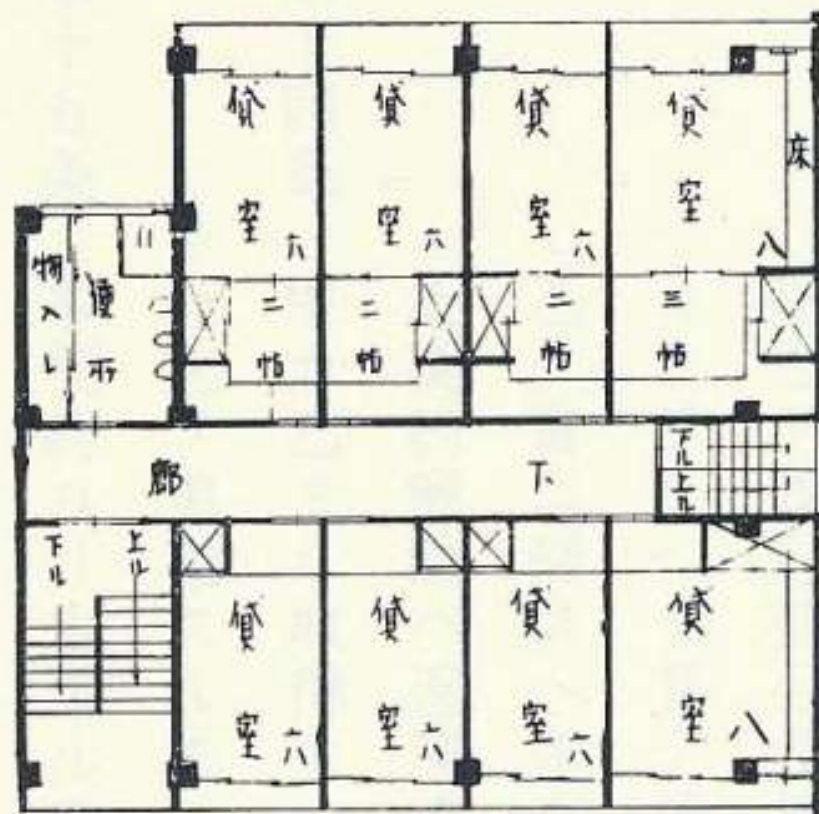
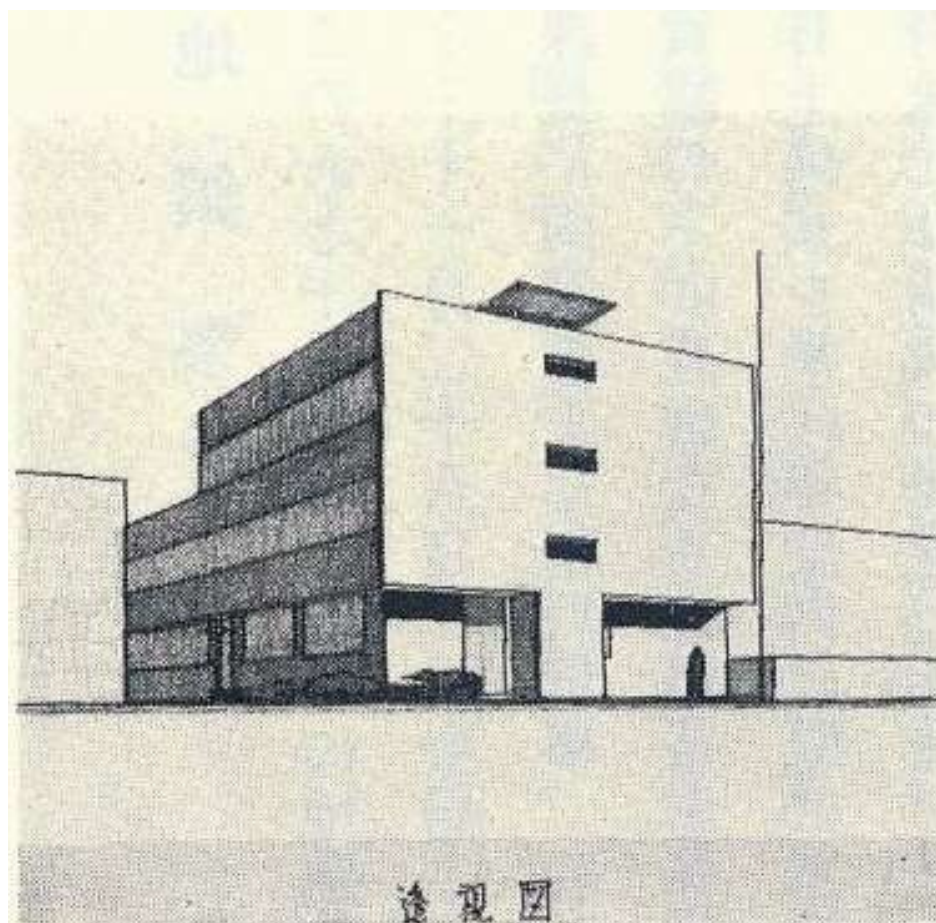


青雲荘アパートメント 2階平面図

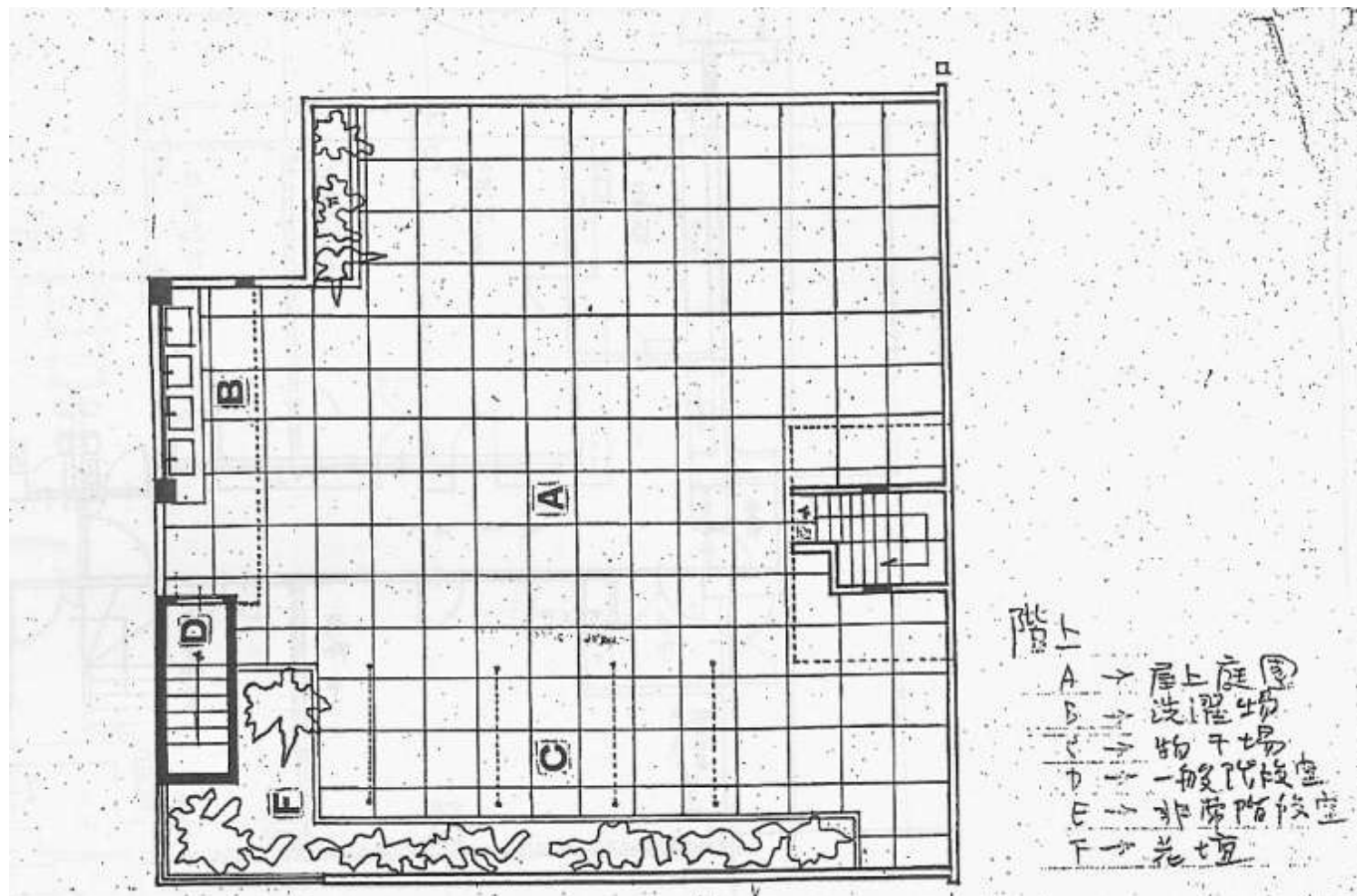
2階平面



青雲荘アパートメント 3階



青雲荘アパートメントの屋上には庭園と物干し場があった



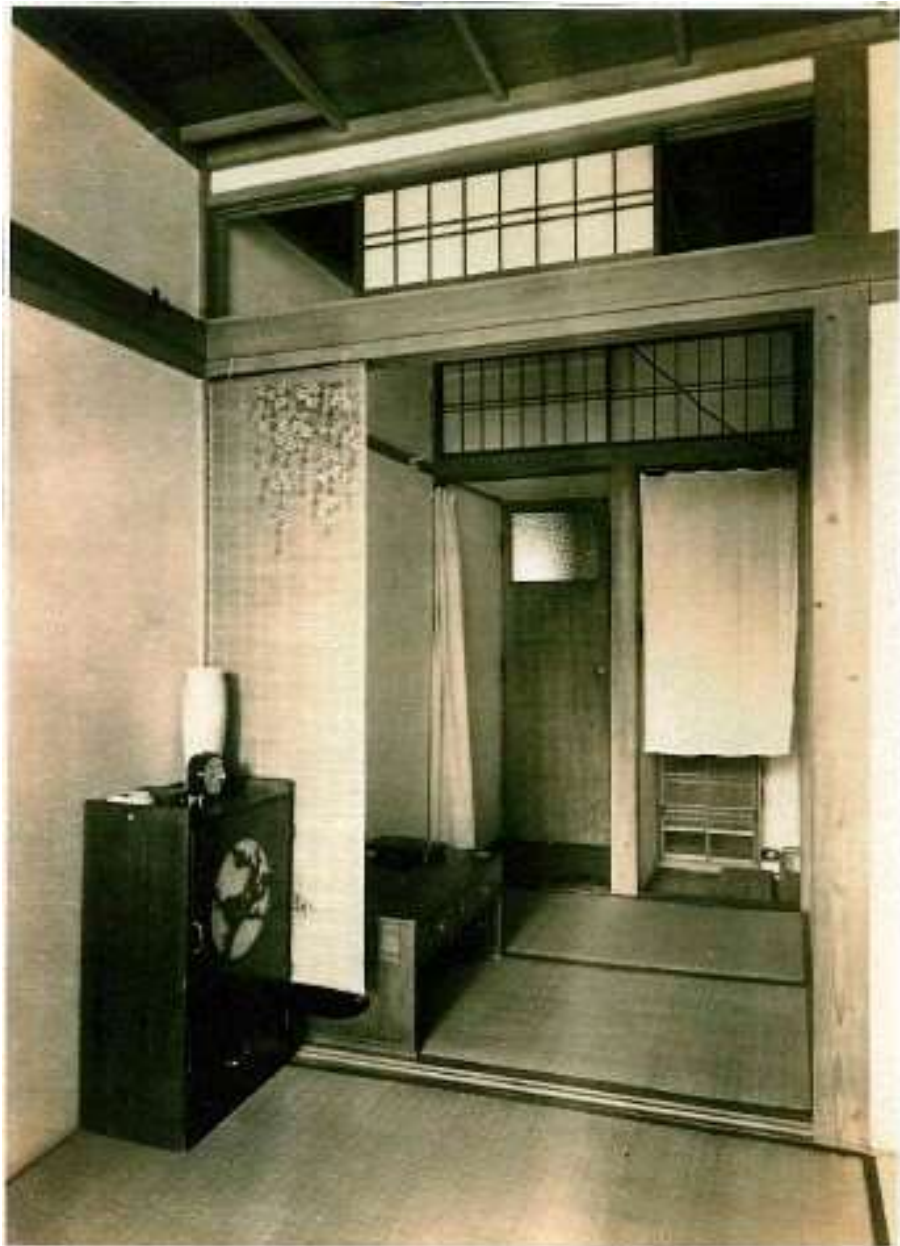
1936年7月 青雲荘アパート・友愛病院の2, 3階の窓は縦回転の硝子の連続窓だった。このデザインは同年の番町アパートにも使っている



友愛病院入口



青雲荘アパートの貸室は一部は洋室だったがほとんどは和室



青雲荘アパート貸室



水洗便所



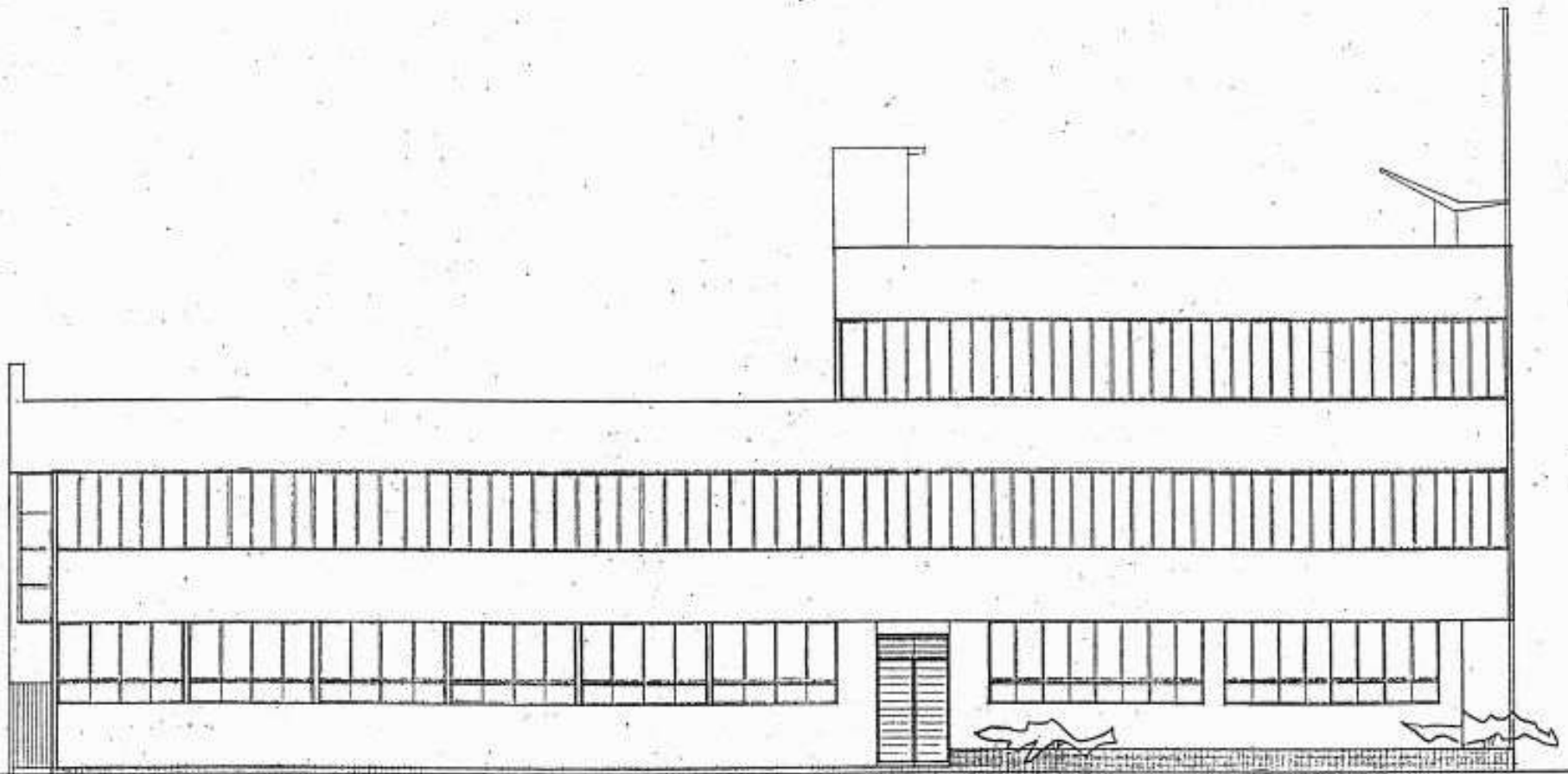
青雲荘アパート貸室



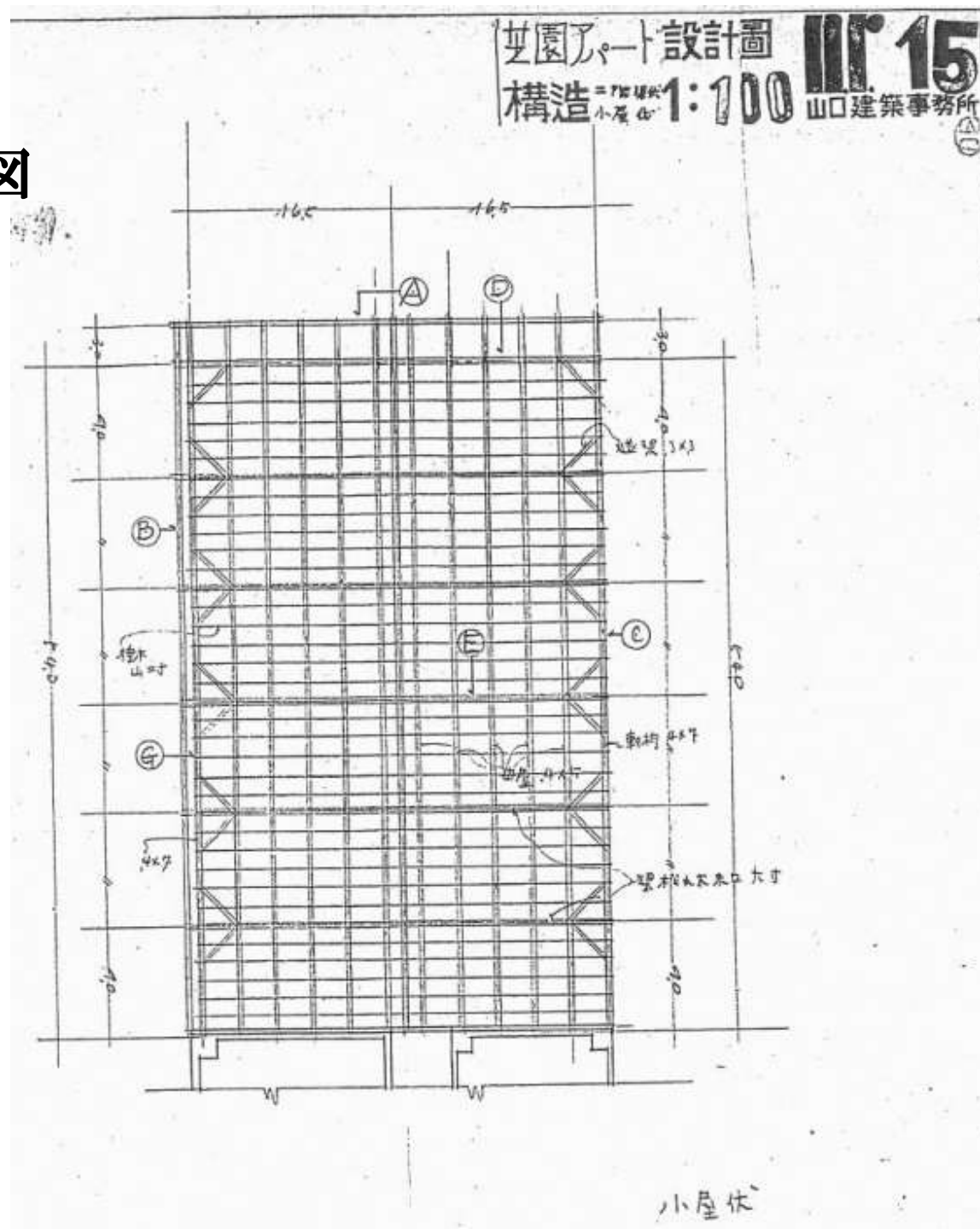
1936年作成の設計図：北側立面図

右半分の3階建て部分は鉄筋コンクリート造だが、左半分の2階建て部分は木造で、小屋組みの勾配屋根がかかっていた。全体を一つのデザインで統一するために屋根を隠すように高いパラペットをまわし、連続ガラス窓を通して、モダンな姿を強調している。

(設計図の原図は(株)アール・アイ・エー所蔵)



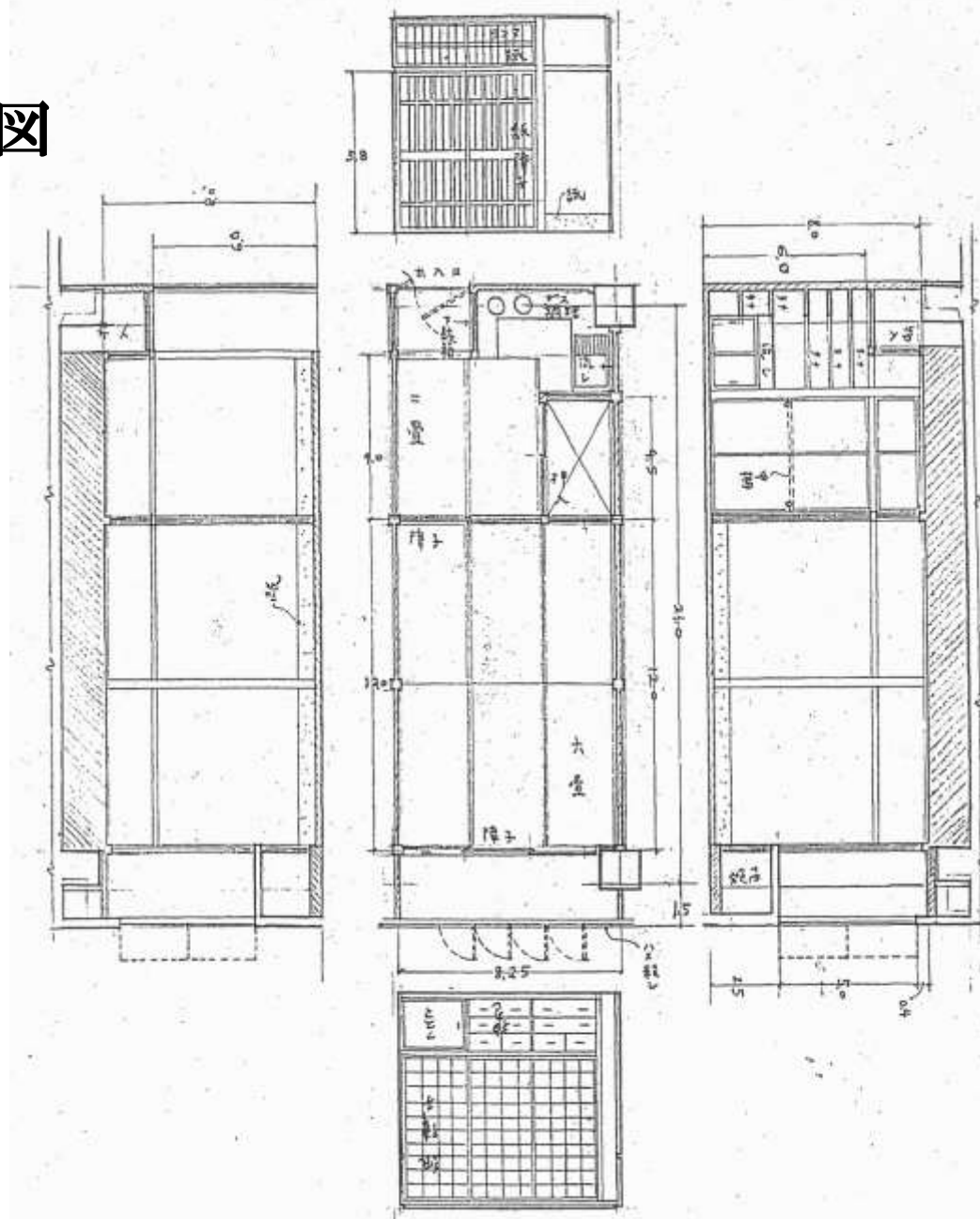
1935年作成の設計図 木造部分の屋根小屋伏図



1935年作成の設計図

2, 3階RC部貸室展開詳細図

2階、3階、コンクリート造、部



山口文象



松岡駒吉



松岡駒吉略歴

- 1888年：鳥取県に生まれる
- 1902・14歳：高等小学校卒業、
- 1903・15歳：舞鶴海兵団給仕、以後転々
- 1910・22歳：室蘭製鋼所 旋盤工
- 1914・26歳：友愛会に入会
- 1918・30歳：友愛会東京本部に着任
- 1926・38歳：渡欧
- 1931・43歳：財団法人日本労働会館理事長、**日本労働会館**開設
- 1934・46歳：鈴木文治の後を受けて総同盟会長就任
- 1935・47歳：**青雲荘アパート・友愛病院**を建設
- 1940・52歳：政府の弾圧で日本労働総同盟を解散
- 1942・54歳：翼賛選挙に立候補して落選
- 1946・58歳：再建した総同盟会長
- 1947・59歳：衆議院議員当選、衆議院議長
- 1950・62歳：総同盟会長を辞任
- 1958・70歳：死去

山口文象略歴

- 1902年：東京浅草で大工棟梁の次男に生まれる
- 1918・16歳：東京高等工業職工徒弟学校卒業、
- 清水組で建設現場勤務
- 1920・18歳：逓信省営繕課製図工
- 1923・21歳：創宇社建築会を結成
- 1924・22歳：内務省復興局橋梁課嘱託技師、
- 日本電力嘱託技師
- 1930・28歳：渡欧してW・グロピウスに師事
- 1934・32歳：日本歯科医専病院の設計で世に出る
- 1935・33歳：青雲荘アパートメント・友愛病院、
- 黒部第2発電所、番町集合住宅など話題作設計
- 1953・52歳：RIA建築総合研究所結成
- 1978・76歳：死去

青雲荘・友愛病院と松岡駒吉

- 1932年、財団がアパート建設費として内務省社会事業低利融資申し込み(新宿、大崎、会館横計3か所、計10万円)
- 1935年、社会事業低利借入決定(10万円予定が4万5千円)のため、予定3か所を会館北隣1か所とする
- 経営計画:家賃収入月600円、利益年4000円、返済16年賦
- 『財団の財源となる一方、労働者の宿舎もできる』
- 『都市に住む労働者の住宅家賃は生活費の2割以上を占めて生活難』
- 『専ら熟練労務者のため快適で安易なアパート住宅を建てたい』
- 「勤労階級の医療費軽減をスローガンを実践化する友愛病院」
- 『「病院開院の目的は「医療の社会化を理想とす」るのであり、「勤労者本位！、実費本位！」がモットー』
- この建設の次の年には老公教事件で戦時体制に入り、民間建築に鉄材制限と、政府の社会事業低利融資予算激減で、松岡のこの事業のタイミングは滑り込み的に可能であった

松岡はなぜ山口文象を選んだか

- 「設計者詮衡に入り、大学、**同潤会**、一般設計家等に渉りその適任者を物色した結果、新進設計者として斯界の注目の的となっている山口蚊象氏の特別なる契約を得るに至り、十月設計終了とともに請負入札」(1935年財団事業報告)
- 当時の最先端アパートメントをつくっていた同潤会ではなく、一般設計家の中から山口文象を選んだ理由はなにだろうか？
- 松岡はモダンデザインを好んだのか？
- 松岡は当時のドイツ社会民主党政権の勤労階級住宅政策である**ジードルング**を知っていたか？
- 山口がドイツでジードルングに触れていたからか？
- 山口が建築運動や**左翼系の活動**もしていたからか？
創宇社建築会、新興建築家連盟、ベルリン反帝グループ、

青雲荘の設計者の候補に同潤会も挙げられていたと当時の事業報告にある。関東大震災復興の住宅供給組織として先進的な住宅をつくった同潤会のアパートメントを、松岡は参考にしたのかもしれない。当時の同潤会は他からの受託の仕事はしていなかった



1923年、山口文象は関東大震災の余燼の中で、仲間の製図工たちと建築運動団体「創宇社建築会」を立ち上げた。その活動は、当初はデザイン志向だったが次第に社会的な活動の志向を帯びてくる。左翼的な言説の講演、底辺労働者の女工寄宿舍の提案、左翼系の演劇人や芸術家と交流する。1930年には全国の建築家たちの総合団体「新興建築家連盟」の結成をリードしたが、読売新聞の赤宣伝でついえた。



1930紡績工場の女工寄宿舍提案
山口文象

山口文象は1931年から32年までベルリンのグロピウス事務所で働いたが、その間にドイツワイマール共和国の住宅政策であったジードルングの設計に携わり、他のジードルングも見てきたと語っている。山口文象が学んできた最先端モダンデザインは、まさに白亜の箱だった。青雲荘もこれを模したのだろう。



グロースジードルング・ジーマンスシュタット 1929-1934



ワイセンホーフジードルングのコルビジェの作品 1927年

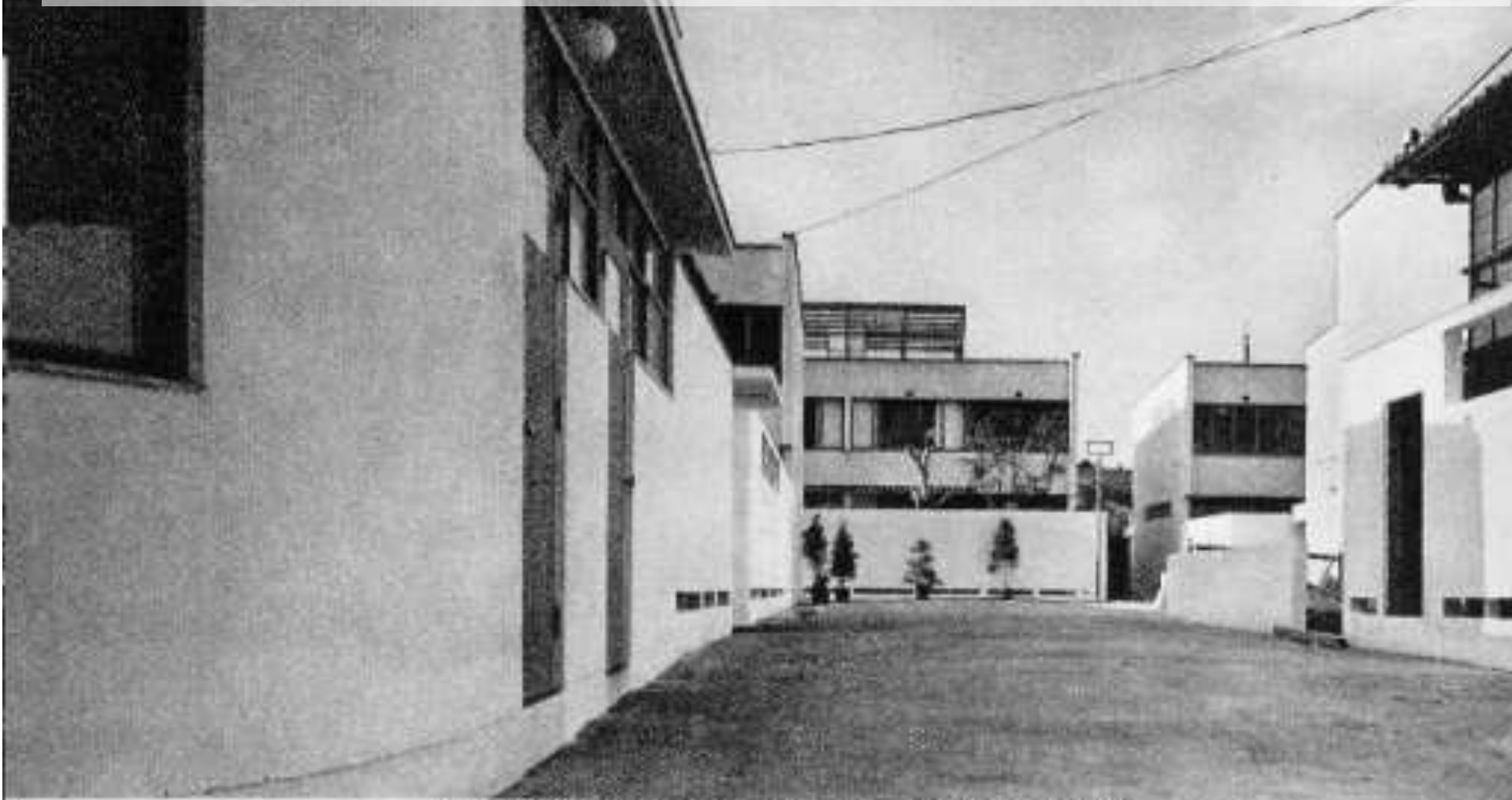
1932年にヨーロッパから帰国した山口文象は、日本歯科医科専門学校病院の設計で、ヨーロッパ最先端のモダンデザインを得意とする新進建築家として活躍する



山口文象の作品の中で代表作とされる「黒部川第2発電所」の設計と、
関連する土木構造物のデザイン(1936～39)



青雲荘アパートメント・友愛病院と同じ年に建った「番町集合住宅」(1936年)は、ヨーロッパのジードルングの姿だが、外国人用賃貸高級アパートメントなので、ジードルングとは言えないと山口文象は語っている。現在の文芸春秋本社の土地に建ち、オーナーは有島生馬

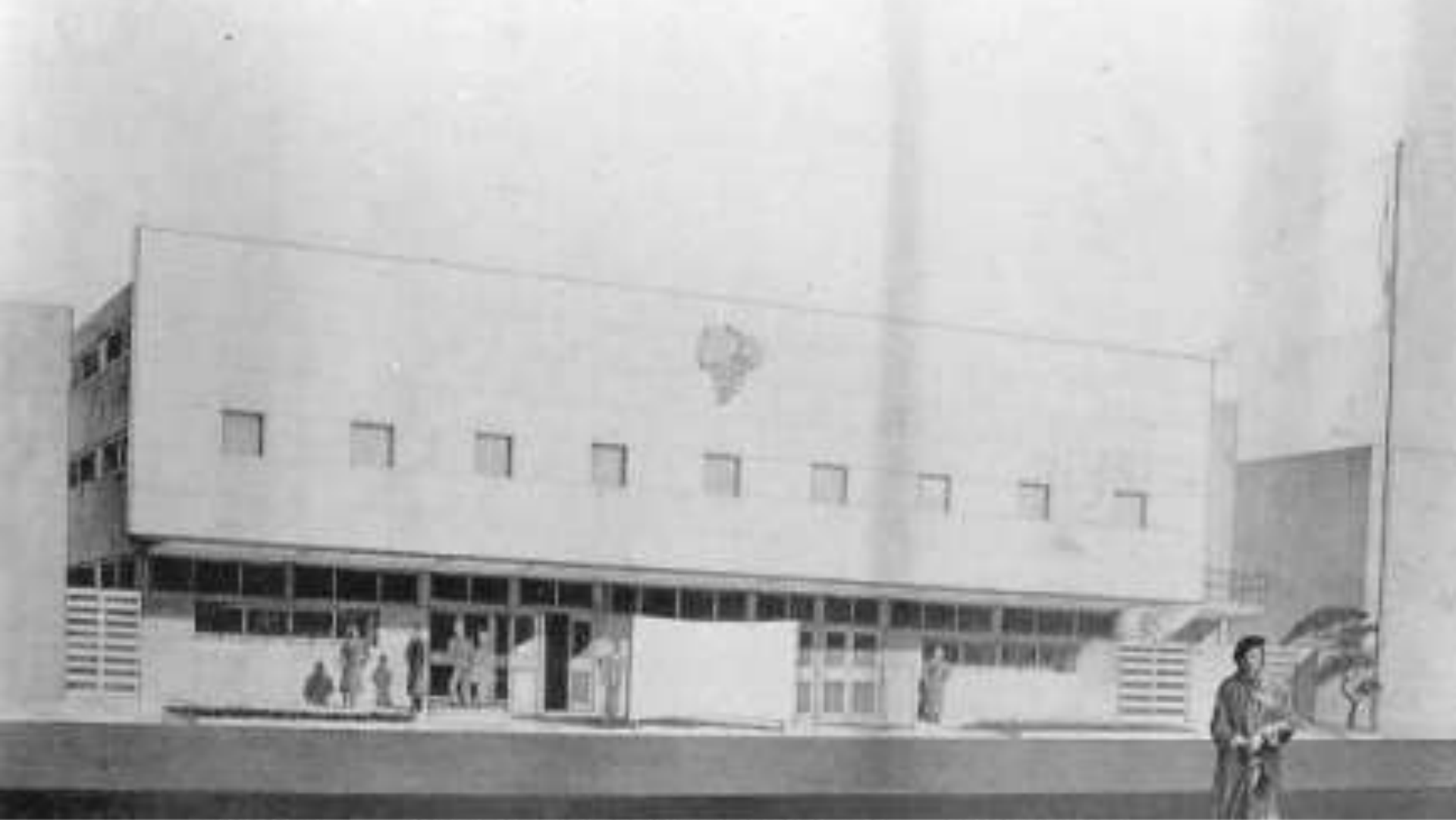


番町集合住宅 1936年 山口文象設計

「山田邸」も青雲荘と同じ年1936年に北鎌倉に建ったモダンな個人住宅で、木造ながらコンクリートで作ったように見せている



左翼的な演劇活動の本拠地だった「築地小劇場」の改装(1939年)をしたが、これは建築家・前川國男と協同作業だったらしい



1939年

築地小劇場改装デザイン

山口文象

山口は表芸としてはモダンデザインを売り物にしていたが、実は大工の息子として和風デザインの名手だった。「林芙美子邸」(1940年)はその典型的な和風建築で、今は新宿区立林芙美子記念館として公開されている



戦中の山口文象は仕事はほとんどなくなり、各地の軍需工場に徴用される工員宿舎の設計をした。海軍幹部の親戚のつてだった。工員の快適な暮らしの場をつくり努力したが、兵器工場をつくることはせず、戦争協力はしなかったと、山口は語っていた。戦中戦後10年ほどは逼塞していたが、1953年に集団設計組織RIAを主宰して再出発し、住宅難時代に庶民のための小住宅の設計を数多く行った。RIAは今は都市と建築の大組織となっている。「是の字寺」(岡崎市1971年)は山口文象晩年の珠玉のような作品



町田市立博物館(1973年)は、山口文象の事実上の最後の作品



青雲荘アパートメントの経営

- 家賃はいくらだったのか？
「5円アパートが出来る」(「労働」35.06)、「昼1枚3円」(36年新聞)→6畳間で月18円、8畳+2畳で30円、これは高いか安いのか？
- 1936年の同潤会アパート入居者の月収はホワイトカラー127円、ブルーカラー84円とあるが、青雲荘の熟練労働者は高給だったか？
- 1937年の東京のアパートは約2000棟、うちRC造はわずか156棟
- 誰が入居していたか？「一般勤人と熟練労働者を入れるそうだ」(36年?新聞)、「真面目な熟練労働者や下級俸給生活者をメンバーに獲得、組合員でなくてはなどといふ規定は設けずだれでも歓迎しカップルでも結構といふ砕けた家主振り」(35新聞)、「当時新進スターだった上原謙一家も住んでおり友愛病院の若い看護婦さんに騒がれた」(60年誌113p)
- アパート経営は黒字、1939年繰越金1万700円余
- 病院の赤字経営をアパートの利益で補っていたのだろうか。
- 川崎に第2青雲荘・友愛病院を開設(1939年)

友愛病院の経営

- 住宅資金として借り入れてその一部で病院を建設
- 内科、外科、小児科、産科、婦人科、皮膚科、性病科、レントゲン及び太陽燈科。社会派医師の安田徳太郎
- 「医療の社会化」 無料出張診療 会員割引
- 病院の赤字経営を青雲荘アパートと牛込食堂経営の黒字で補てんか
- 「同業者から異端者として迫害を受けた」
- 1939年に川崎の労働組合の要請で第2青雲荘友愛病院を建設
- 1940年に総同盟は解散したが財団は継続したのでアパートも病院も継続経営できた
- だが、1945年の空襲で全てが終わった

医療の社会化を理想とする

友愛病院

芝区三田四丁目芝園橋

／療診費實　／位本者労働

院長 醫學博士 中川鐵治郎
 同 醫學博士 安田徳太郎
 同 醫學士 岡野統典
 同 藥劑師 吉田幹
 主任 産 婦 松尾キミ

性病科 レントゲン及太陽燈科
 産科 婦人科 皮膚科
 内科 外科 小児科

七月一日より開院

経営責任者 財団法人日本労働會館
 電話二面(三)一〇二五番

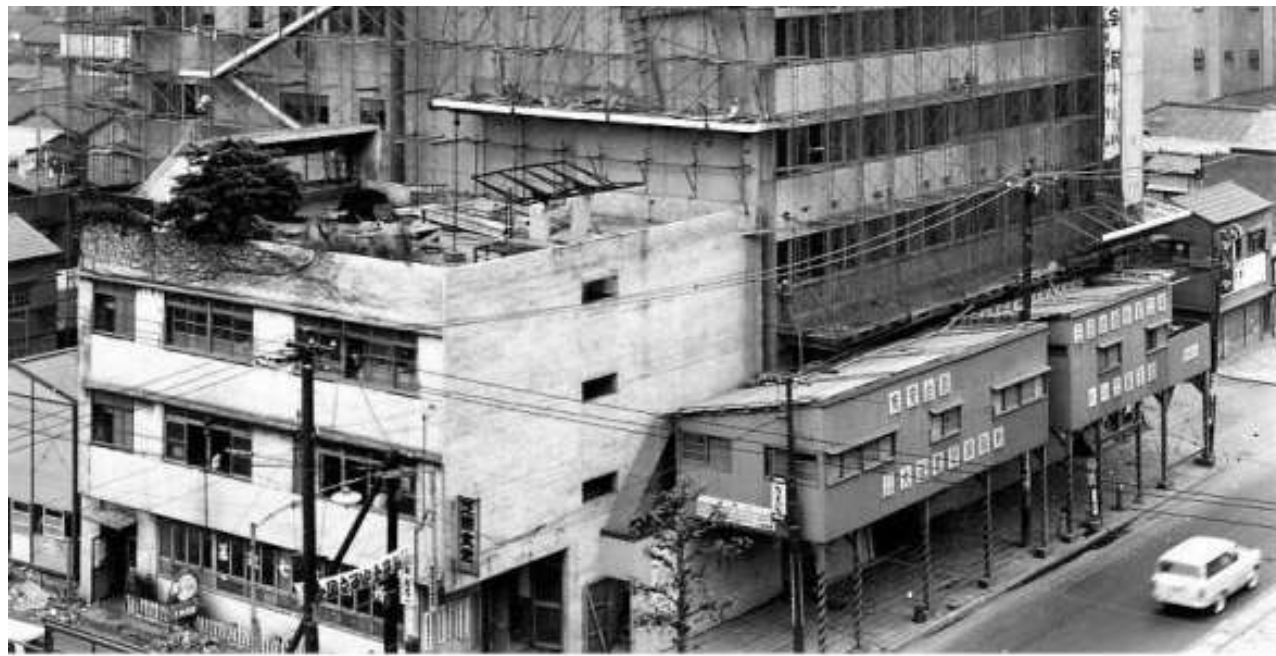
1945年5月25日のアメリカ軍機の空襲により労働会館は焼失、青雲荘アパートは木造部分が焼失、コンクリート部分は躯体は焼け残ったので、終戦とともに修復して外食券食堂「芝園食堂」を開設した。終戦後は労働組合運動が自由になり、1947年に松岡駒吉は日本労働総同盟を再建し、労働会館跡に「総同盟会館」と「全織同盟会館」を建設して活動の本拠地とした。



総同盟と財団を率いてきた松岡駒吉は1958年にこの世を去った。

1964年に総同盟会館と全織会館を撤去して跡地に「友愛会館」を建設した。

工事中の友愛会館の隣に焼け残り青雲荘を改修した芝園食堂が建っているが、友愛会館の駐車場用地としてこれも撤去された



1964年、「青雲荘アパートメント・友愛診療所」の空襲焼け残りのコンクリート部分を改修して、「芝園食堂」や事務所などの雑居ビルとして生き延びている姿。1945年から1964年までの姿

1964年に事務所とホテルが入った「友愛会館」が完成

北隣に芝園食堂(青雲荘)の建物が見える

この友愛会館の経営は、かつての青雲荘アパートのように、うまくいかなかった



友愛会館竣工 昭和 39 年 12 月
(地上 9 階、地下 2 階)

1977年に友愛会館を事務所専用ビルに改装、北隣の元青雲荘があった場所に「ホテル三田会館」を建設

三田会館
ホテル三田会館



2014年に敷地を更地にして「友愛会館・ホテル三田会館」が一体となったビルが竣工

これでこの地の120年にわたる建築物語は終了



「惟一館」と「青雲荘」の跡地には「三田会館・友愛会館」が建っている



山口文象

Yamaguchi Bunzo, architect



最後にお二人に敬意を表して終わります 本日はありがとうございました